中国文化の故郷（人口推移から中華思想を推察）

Historical fact seen from China of artificial transition

史実を世界に発信する会　土井　均

Society.for the Dissemination of Historical Fact.

http://hassin.org/　　Doi Hitoshi

ＮＢＬ研究所　西野義則、河野摩耶、武西加奈子

NBL Technovator.　http://nbl-technovator.com

Nishino Yoshinori, Kawano Maya, Takenishi Kanako

概要：　国際社会に登場した近代中国の社会思想の根源を求めて、歴史的な背景を人口推移から見た調査研究を行った。中国は統一国家となるたびに激しい人口変動が起こっていることから、職業軍人による戦争ではなく、農民をも巻き込んだ中国人同士の争い（内戦）による人口激減を繰り返し経験していることから、現代の中華思想が形成されたと解釈できるとの研究成果について報告。

Summary:　In Search of the origin of social thought of modern China that appeared in the international community, was carried out research studies that look at the historical background from artificial transition. Since China is going intense artificial change each time it is a unified country, rather than the war by professional soldier, from the fact that you have repeatedly experienced the artificial depleted by conflict (civil war) of Chinese each other involving also the farmers, the report on the research results and can be interpreted as modern Chinese thought has been formed.

キーワード：中華思想の源、中国の歴史と人口推移、中国の戦争歴史

Keywords: sinocentrism source of Chinese history and artificial transition, the China war history

１、はじめに

この研究論文の執筆者である土井均氏は、2013年９月10日10時“43分なでしこアクション”の記事情報の送付を最後に急性循環器病で他界、この報告書は８月30日付けで最後に送付された調査研究報告書である。共同研究者の西野義則が故人と議論を重ねた内容を加味して、河野摩耶、武西加奈子の協力で研究資料を完成させた。中国人は、古くから統一国家となる大きな政変のたびに人口が変動している。これには、戦争当事者の軍隊は職業軍人でなく、農民などが大量動員させられて交戦、傷ついて故郷に帰ると戦争によって労働力が奪われているため、畑は荒廃し、食糧問題などを引き起こして、人口が激減していた歴史がある。

一方、共産中国になってからは、革命戦争（内戦）、大躍進政策、文化大革命などで、１億人前後が餓死させられたり殺されたりしている。まさに、中国人の最大の敵は中国人と言えること今後の巨大化する中華思想の原点は国内事情による変革となることが推察される。

２、現在の中華思想

2015 年に日中平和友好条約 37 周年を迎える両国は、これまで政治、経済、文化、教育など多方面において、変化の大きい二国関係を築いてきた。この間には「歴史教科書問題」や政治家の「靖国神社公式参拝問題」、「東シナ海ガス田問題」、「尖閣諸島問題」など、「歴史認識」の問題で両国関係に波風が立つことがあった。しかし、江沢民国家主席（1988 年当時）や、温家

図１[3)]　現在の北京天安門

宝の来日（2007、2010、2011）、胡錦濤国家主席（2008 年当時）来日時の「日中共同声明」、習近平国家主席と安倍晋三総理との 2015 年 4 月共同声明「対立が緩和されてきた」発表など、少しずつではあるが友好的に発展してきているといえる。これらの世論調査報告は、特定非営利活動法人　言論ＮＰＯ　2013 年８月 5 日発表「第９回日中共同世論調査結果（http://www.genron-npo.net/world/type/cat170/）に記載されている。

図２[3)]　現在では観光路、万里の長城

一方、中国は近年日本のＧＤＰの2倍の規模でアメリカに次ぐ世界第２位の経済力を持つ。軍事も経済力に見合う戦力で、今やアメリカを超える経済大国となることが国際社会では周知の事実となっている。

この巨大化する中国の影響は、2015年までの中華思想は単なる反日感情議論であったが、今後は大きく変革してアメリカに及ぶ戦略的な中華思想となることが予想され、現代国際社会の変革に対応する新秩序造りを模索する世界情勢にある。

このような重大な時期となった現在、今後の戦略的な中華思想の変貌と国際戦略が展開される予測研究（中国社会の変動）を歴史の人口推移から見て、今後の中華思想の推移は国際社会に影響されることなく、国内事情により形成されると推察し、本研究では古代から近代に至る人口推移の歴史を調査解析する。

３、古代の人工

図３は、BC200～600 年の 1000 年（日本：弥生時代から奈良時代）にかけての朝鮮・日本・中国の３国対照年表である。図から４回に及ぶ政変があり、図４は政変のたびに人口推移の変化を示し、前漢から中華民国に至西暦 2 年から 1929 年の 1900 年間に、統一国家形成ごとの 1900 年間に８回の人工激減となる政変を経験している。すなわち、図から赤色表示する 8 回もの統一国家となるたびに人口が半減から最大１／５ともなる大きな政変があったことを示す。この意味は単に 2 国間の戦争により勝者と敗者に分けられる戦争ではなかったことを示している。なぜなら、仮に戦争は互角の相手と戦い、相手を全滅させたとしても、両者の人口が 20%に激減する勝者の自損が 60%以上生じるような戦争がありえないことから明らかなこ

図３[2)]　朝鮮・日本・中国　三国対照年表

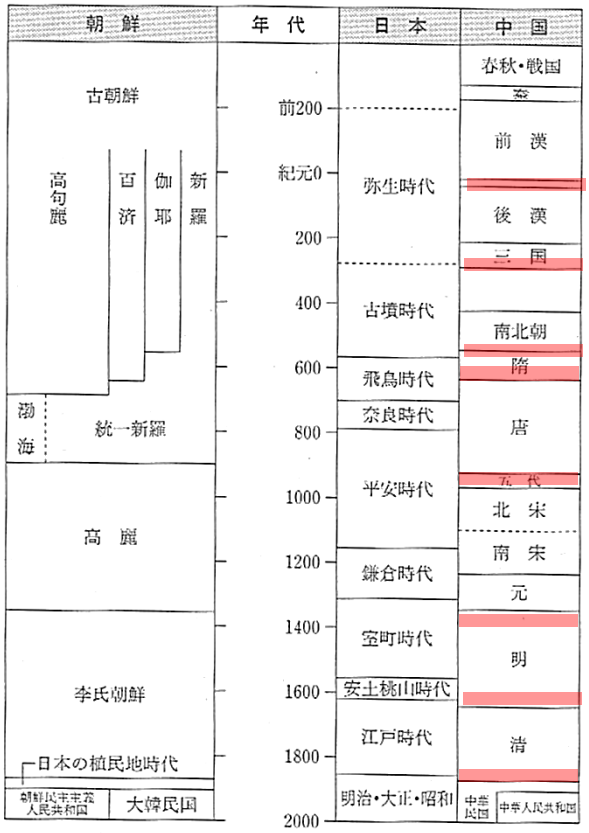


図４[2)]　中国の人口変遷

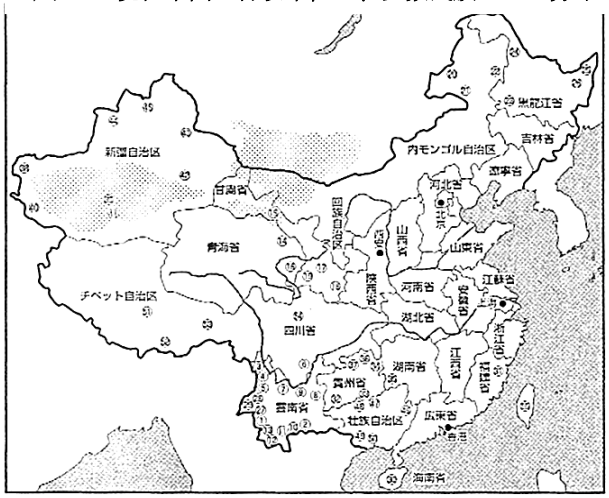
[王朝名]	[西暦]	(中国暦)	[推定人口数]
前漢	2年	元始　2年	59,594,978人
後漢	57年	中元　2年	21,000,000人
	156年	永寿　3年	50,066,856人
三国	242年	正治　3年	7,630,000人
晋	289年	太康　元年	16,000,000人
隋	580年		9,000,000人
	606年	大業　2年	46,019,056人
唐	626年	武徳　9年	16,520,000人
	755年	天宝　14年	52,919,309人
宋	976年	興国　元年	18,000,000人
	1021年	天禧　5年	19,930,000人
	1101年	大観　4年	46,734,784人
宋(南)	1160年	紹興　30年	19,230,000人
元	1264年	至元　元年	13,020,000人
	1290年	至元　27年	58,830,000人
明	1381年	洪武　14年	59,870,000人
	1504年	弘治　17年	60,105,853人
清	1644年	順治　元年	10,630,000人
	1720年	康熙　59年	25,029,949人
	1851年	咸豊　元年	432,160,000人
(太平天国の乱)	1861年	咸豊　11年	266,880,000人
	1910年	宣統　2年	342,000,000人
中華民国	1929年	民国　18年	450,000,000人

とは、少なくとも軍隊と軍隊が争った２つの国の単純な戦争ではなかったことが、近代の戦争結果から見ても明らかである。すなわち、**国民総動員による戦いであったこと**、さらに**その結果勝者も戦後復興ができなかった２次的な損傷**（疫病の繁栄とか食糧生産の労働力がなくなった）が生じた結果であると思われる。すなわち、図３．４は中国が多民族国家でできているため、国家統一戦争は異なった国家間での戦争ではなく、統一国家内の内戦であったことを示し、内戦は民族対立によって発生していたと思われる。図４はそのたびに人工が変動（激減）が生じたことを示している。これは、戦争当事者の軍隊は職業軍人でなく、宗教戦争のような統一国家間の戦争ではなかった。統一国家内の部族グループ間不満が爆発して、結果的に農民など部族総動員させられて生死を分ける交戦となったこと、終戦後に傷ついて故郷に帰ると戦争によって労働力が奪われているため、畑は荒廃し、食糧問題などを引き起こして、人口が激減した。一方で戦後爆発的な人口増加をしているのは、殺戮の結果耕作地の再配分がなされ平和期間が続き統一国家が繁栄したことを示す。すなわち、中国古代の統一国家となる繰り返された戦乱の歴史は、多民族国家の内戦と定義される戦争が主体であり、長い歴史から国民は中国人を敵と思い外国人を敵と認識しない歴史を持つ人類史上に巨大な統一国家を形成した国家であると思われる。

４、1700 年から人口急増で太平の乱で激減

中国は長年に渡り 2000～4000 万人の人口であったものが、1700 年以降約１億人に達し、1850 年ごろには 4.5 億人に達して、太平天国の乱で約 1．６億人の激減となる大虐殺（3 人に１名が

図５[1] 現在中国の行政単位と、少数民族５５の分布



① ラフ族	⑳ モンゴル族	㊴ ウイグル族
② ジノー族	㉑ エヴェンキ族	㊵ タジク族
③ トールン族	㉒ ダフール族	㊶ ウズベク族
④ リス族	㉓ 満族	㊷ タタール族
⑤ ヌー族	㉔ オロチョン族	㊸ カザフ族
⑥ イ族	㉕ ホジェン族	㊹ シボ族
⑦ ナシ族	㉖ 朝鮮族	㊺ オロス族
⑧ ペー族	㉗ ドアン族	㊻ ヤオ族
⑨ プミ族	㉘ アチャン族	㊼ ムーラオ族
⑩ タイ族	㉙ チンポー族	㊽ マオナン族
⑪ ブーラン族	㉚ リー族	㊾ チワン族
⑫ ハニ族	㉛ ショオ族	㊿ キン族
⑬ ワ族	㉜ プイ族	(51) チベット族
⑭ トゥー族	㉝ スイ族	(52) メンパ族
⑮ ユーグ族	㉞ ミャオ族	(53) ロッパ族

中国・55の少数民族，民族名と人口数

北(チワン)族㊾ 1,555万人	錫伯(シボ)族㊹ 17万人
満(マン)族㉓ 984万人	仫佬(ムーラオ)族㊼ 16万人
回族⑱ 861万人	柯爾克孜(キルギス)族㊳ 14万人
苗(ミャオ)族㉛ 738万人	達幹爾(ダフール)族㉒ 12万人
維吾爾(ウイグル)族㊴ 720万人	景頗(チンポー)族㉙ 11万人
彝(イ)族⑥ 657万人	布朗(ブーラン)族⑪ 8万人
土家(トゥチャ)族㉟ 572万人	撒拉(サラ)族⑲ 8万人
蒙古(モンゴル)族⑳ 480万人	毛南(マオナン)族㊽ 7万人
蔵(チベット)族(51) 459万人	塔吉克(タジク)族㊵ 3万人
布依(プイ)族㉜ 254万人	普米(プミ)族⑨ 3万人
侗(トン)族㊸ 250万人	阿昌(アチャン)族㉘ 2万人
瑤(ヤオ)族㊻ 213万人	怒(ヌー)族⑤ 2万人
朝鮮(チョウスン)族㉖ 192万人	鄂温克(エヴェンキ)族㉑ 2万人
白(ペー)族⑧ 159万人	京(キン)族㊿ 2万人
哈尼(ハニ)族⑫ 125万人	基諾(ジノー)族② 2万人
黎(リー)族㉚ 111万人	徳昂(ドアン)族㉗ 2万人
哈薩克(カザフ)族㊸ 110万人	烏孜別克(ウズベク)族(41) 2万人
傣(タイ)族⑩ 102万人	俄羅斯(オロス)族(45) 2万人
畲(ショオ)族㉛ 63万人	裕固(ユーグ) 族(53) 1.2万人
傈僳(リス)族④ 57万人	保安(ボウナン)族(17) 1.1万人
仡佬(コーラオ)族㊼ 43万人	門巴(メンパ)族(52) 7000人
拉祜(ラフ)族① 41万人	鄂倫春(オロチョン)族㉔ 7000人
東郷(トンシャン)族⑲ 37万人	独龍(トールン)族③ 6000人
佤(ワ)族(13) 35万人	塔塔爾(タタール)族㊷ 5000人
水(スイ)族㉝ 34万人	赫哲(ホジェン)族㉕ 4000人
納西(ナシ)族⑦ 27万人	高山(ガオシャン)族㊲ 3000人
羌(チャン)族(54) 20万人	珞巴(ロッパ)族(53) 2000人
土(トゥ)族(14) 19万人	その他未識別民族（75万人）

総計9113万7000人　　資料：中国人口統計より（1997年）
民族名のあとの数字は，P.17の地図における居住域を示す

なくなった）に遭遇している。　過去の例では1600 年ごろの清の統一国家誕生で５人に４人が命を落とす経験もしている。すなわち、古代から現在に至まで、中国人のＤＮＡに書き込まれた歴史は､内戦による恐怖が大きいと考える。その後、近代中国となって人口増加が継続して2010 年には 13 億人と約 5 倍に増加した。

５、中国の多民族国家

図５は現在の中国の行政単位と少数民族５５の所在を示す。図６は少数民族の名称と人口数を示す｡図から 55 民族は筆頭のチワン族の 1555 万人から、1000 人に満たない民族からなる。当然ながら、宗教、人種、言語、習慣が異なる。

一方、主体をなす漢民族にも、属性があり、単一民族とは思われないところがある。広大な地域に数億から１３億人ともなる多民族が古代から現在までに支配地域を守るために、巨大なエネルギーと犠牲を伴って統一国家を形成してきた。　万里の長城はその象徴であり、おおよそ**統一国家を保つために犠牲となった人民は、世界に累がない数であることは確かである。**これが多民族の結束を助長して、現在中国にもそのまま引き継がれているのも事実である。

６、日本は明治時代から人口増加

一方、日本は奈良時代からも約 4000 万人の人口水準を保って、明治以降に増加して１億人となった。また多くの内戦と先の太平洋戦争を経験しているが、中国のように人口が例えば約 30%以上の激減した政変の歴史を持たない。最も犠牲の多かった太平洋戦争が 310 万人（人口の約 5%）であったことからも、中国の戦争による犠牲者の数、犠牲者の発生率には到底及ばない。

図７[2)]

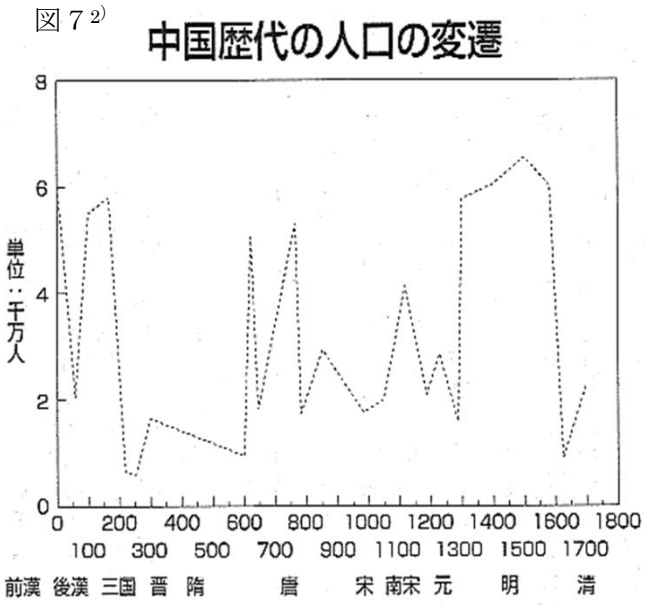
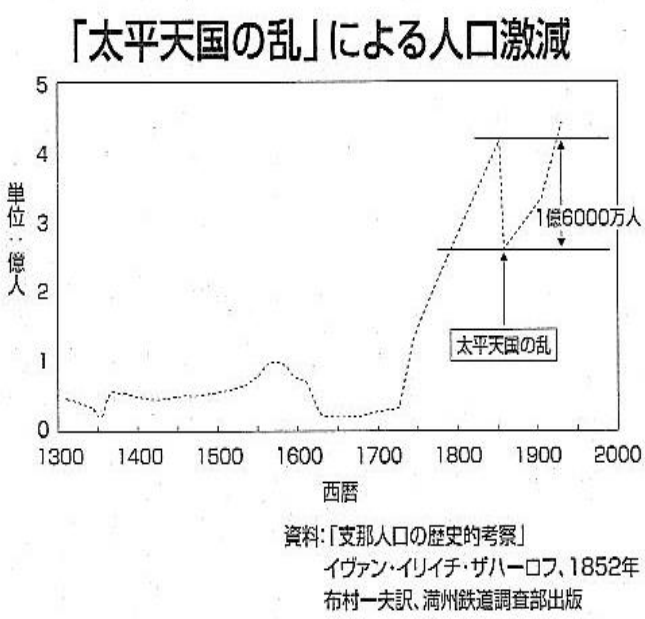


図８[2)]



７、中国は有史上で最大の政変による人民の犠牲を払った国家

図７は有史以来 1800 に至中国の人口推移を示している。 図から約 1800 年間最大人口が約 6000 万人で最小約 1000 万人を約 5 回繰り返して増減していることが判る。さらに、1800 年間最大人口は均等な増加は認められない。すなわち、人類が持つ文化発展による個体数の増加を記録していない。最大と最小の比は約 5 倍であり、繰り返し経験している。研究なかったことを示す。図８は 1700 年後期から 1800 年後期にかけて 4.3 億人と人口が急増したが、太平天国の乱（内戦）が勃発した結果、人口が 1 億 6000 万もの激減を記録している。これはわずか 100 年足らずの過去の出来事から、詳細な記述がある。同様な民族間の紛争を巻き込んだ内戦による歴史を有史以来、８回以上の経験を持つ民族は、国家統一に関して、大きな犠牲を伴った歴史事実から、現在の中華思想が形成されたと考える。

８、今後変動する中国

９、おわりに

中国民の血に流れる DNA は、国民の３０％が抹殺された古代の歴史、最近でも１０％が抹殺された革命と呼ばれる政変で血が流されている歴史から生まれていると解釈する。日本にはこのような政変による大量殺戮・虐殺の歴史はない。すなわち、大陸で成立した多民族国家の DNA と、島国で単一民族国家の DNA とは、歴史経験の異なり違いが記憶されており、その結果、国際問題などはこの認識違いが発生するのはこれが基本原因と推察する。

大陸型 DNA（中華思想）は、多民族国家統一に必要な強い政府を必要とし、国民共有目的が必要されるが、反面自己犠牲を好まず、協調性（ナショナリズムなど）には欠ける特徴を持つと推定する。

今後さらに繁栄する中国、国際秩序に影響を強める中華思想は、これらが原点であることから、最も心配する内戦の脅威とならない基本的な政策を持ち、国民共通の所得増となる経済運営を目的に人民が共鳴する方向で、中華思想がより強固に構築されると結論する。　これは、１３億人で近年中に世界最大の経済大国となる中華帝国と、日米が力で対抗しようとする軍事力競争が如何に間違っているかを知る。

本研究で得た結論は、軍事力でなく文化の競合を推奨する。なぜなら中華思想に欠けるのは先進国文化の普及であり、これにより中華思想の対外的な方向が強化されることが弱められると考える。しかし他方では、蓄積された中華の過激な DNA が短期に解消されることがなく、しばらくは殺人事件など多発する社会の源となって批判が出ることも認識が必要と結論する。

著者紹介：

土井　均：　団塊の世代で科学技術発展に寄与生涯を独身で過ごし、宇宙人のような発想と議論を好み、着飾ることを好まず、機能性社会の必要性を説く、模倣したい化学技術者。
出身地は兵庫県淡路島、東京大学造船学科卒業、アメリカMIT情報処理で工学博士授与、ＩＢM社に入社、退社後に“史実を世界に発信する会、http://hassin.org/ 監事“ 、密教：吉野山修験道を修業、(株）ＮＢＬ研究所顧問

西野義則：　団塊の世代で真理の探究を生涯学習として、世のため人のためとなることをモットーに研究開発を業務に、今もって現役技術者。大阪工業大学卒、複合材料専門の工学博士。日立造船技術研究所入社、退社後にＮＢＬ株式会社設立、ＧＢＳ学会顧問、ＧＰＩ標準化委員会理事
http://nbl-technovator.com

河野摩耶：　奈良県出身、福岡市在住、３つ子の母、慶応大学文学部博士過程前期卒、古代史を分析化学情報で研究、ＮＢＬ研究所嘱託。
http://nbl-technovator.com

武西加奈子：和歌山出身、ＮＢＬ研究所　西野秘書、オーストラリア留学経験で英語、北京留学経験で中国語を収得して国際業務に秘書。知的財産権の評価法を研究。
http://nbl-technovator.com

参考・引用文献：

(1) 人民政府公開資料：中国人口統計 1997 年版
(2) (布村一夫訳) イヴアン・イリイチ・ザハーロフ、支那人口の歴史的考察、満州鉄道調査部 1852 年出版
(3) 中国の歴史と人口の変遷、崔基鎬著、祥伝社
(5) 真実の中国４０００年史、杉山徹宗著、祥伝社